

大津市埋蔵文化財調査年報

—平成19（2007）年度—

2009

大津市教育委員会

衣川遺跡

調査地 大津市衣川二丁目字西羅571-2 他
調査期間 2008.01.15~2008.03.14
調査面積 250m²
原因 宅地造成

調査の概要

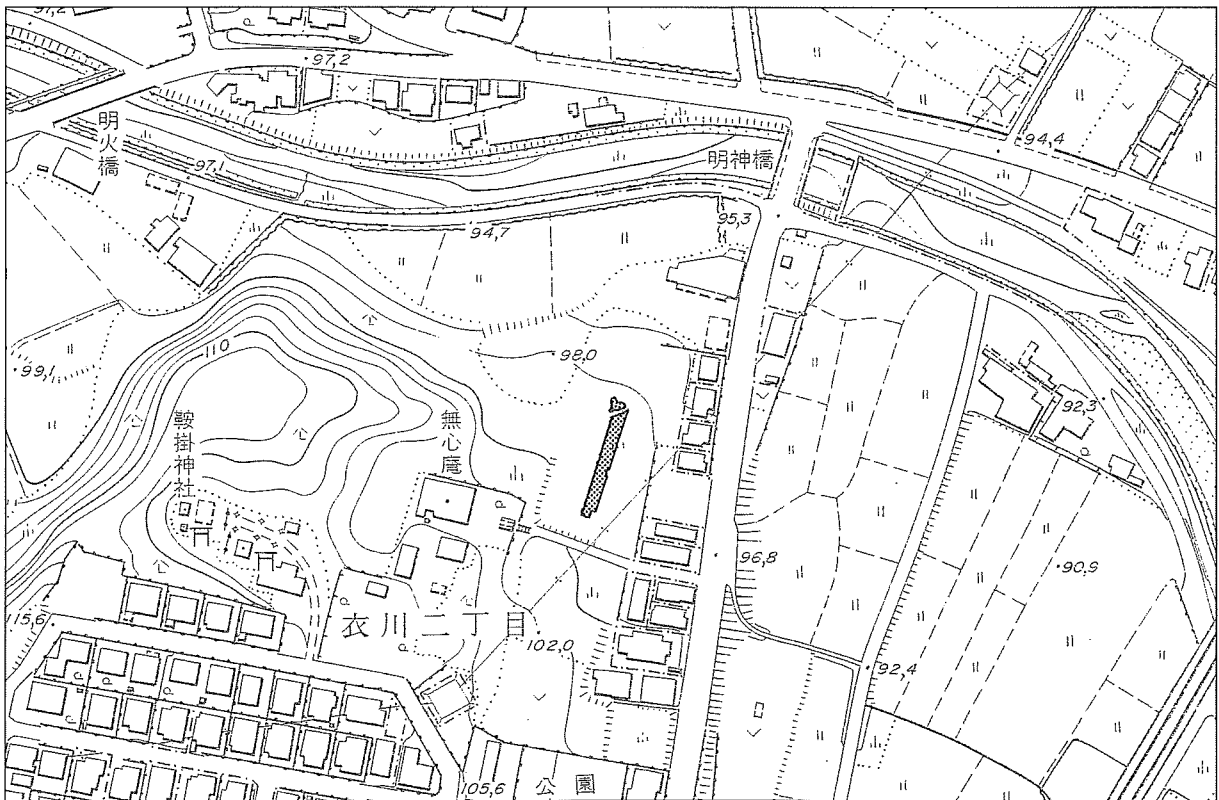
衣川遺跡は、大津市衣川一丁目から二丁目にかけて、JR湖西線の堅田駅より南へ約1kmのあたり、天神川と御呂戸川に挟まれたところに広がる遺跡である。今回の調査地点は、遺跡の範囲内でもっとも北より、天神川のすぐ南側で、壬申の乱に関連する伝承をもつ鞍掛神社のすぐ東側にあたる。周辺には、まず南には近江ではまれな帆立貝形古墳を含む西羅古墳群や、近江最古の寺院とされ国史跡に指定されている衣川廃寺が位置する。そして天神川を挟んで北側には、現在約200基が確認され、一部は国史跡に指定されている春日山古墳群が存在するなど、古代より重要な地域であると思われる。

衣川遺跡では、昭和57年度に今回の調査地の東側100mの農道沿いに管埋設の際に行われ

た調査で、方形の柱掘形をもつ柱穴が検出され、建物あるいは柵が想定された。また古墳時代から近世にかけての遺物が出土し、円面硯も出土している。さらに調査地の西側、鞍掛神社のすぐ東側で行われた発掘調査で古代の掘立柱建物が見ついている。この他、数箇所が発掘調査が行われているが、どれも調査面積が小さく詳細は不明である。しかし、包含層より勾玉や滑石製有孔円板が出土しており、先述の円面硯など、古墳時代から連綿と続く人々の生活が想定されている。

今回の調査は、宅地造成に伴う発掘調査で、造成に伴う道路部分のうち試掘調査で遺構・遺物が確認された範囲約250m²について本調査を行った。

調査地の基本層序は、0.3m程の表土を除去すると、約1.2m程の良好な遺物包含層が確認された。この包含層からは、古墳時代の土師器の鍋が出土したほか、遺構面近くから完形品の黒色土器と回転台土師器などが出土した。さらに、多くの土器が出土した他、重機の廃土内より勾玉が1点出土した。



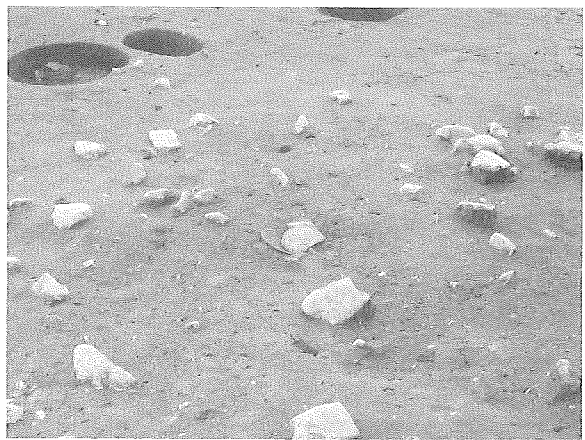
調査地位置図 (S=1/2500)

この包含層を除去すると、特にトレンチ南半で多くのピットや土坑を検出した。これらのピットや柱穴は、埋土から平安時代を中心とする遺物が出土したことからおおむねこの時期のものであると考えられる。しかしトレンチの形状（道路部分の細長い形状）により柱穴のまとまり等ははっきりとしなかった。また、トレンチ南半のピット等がまとまって検出されているところで、拳大程度の礫が径2 m程度の範囲に散布しており、その真ん中あたりに完形の土師器皿2枚が口縁を合わせるようにしておかれている状況で検出された（下図）。この土師器皿の下を掘り下げたところ、礎板状の石を置いた柱穴を検出した。前述のとおり建物等のまとまりは不明であるが、この礫がまとまって散布し、その中央に土師器皿2枚が置かれている状況は、なんらかの祭祀行為が行われていたのであろうと考えられる。

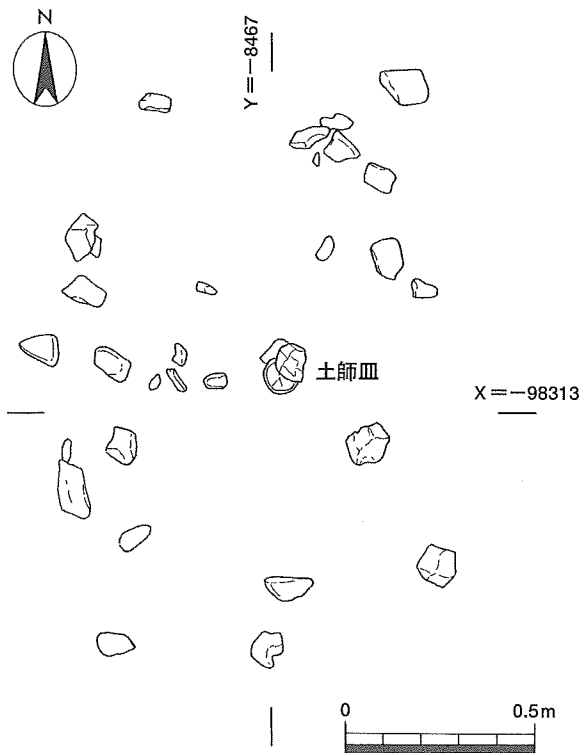
またこの遺構面検出の段階で、遺構面にさらに遺物が包含していたことから、下層確認トレンチを2箇所設定して、掘り下げを行ったところ、多くの遺物が出土した。特に、トレンチ中



包含層遺物出土状況



土師皿出土状況

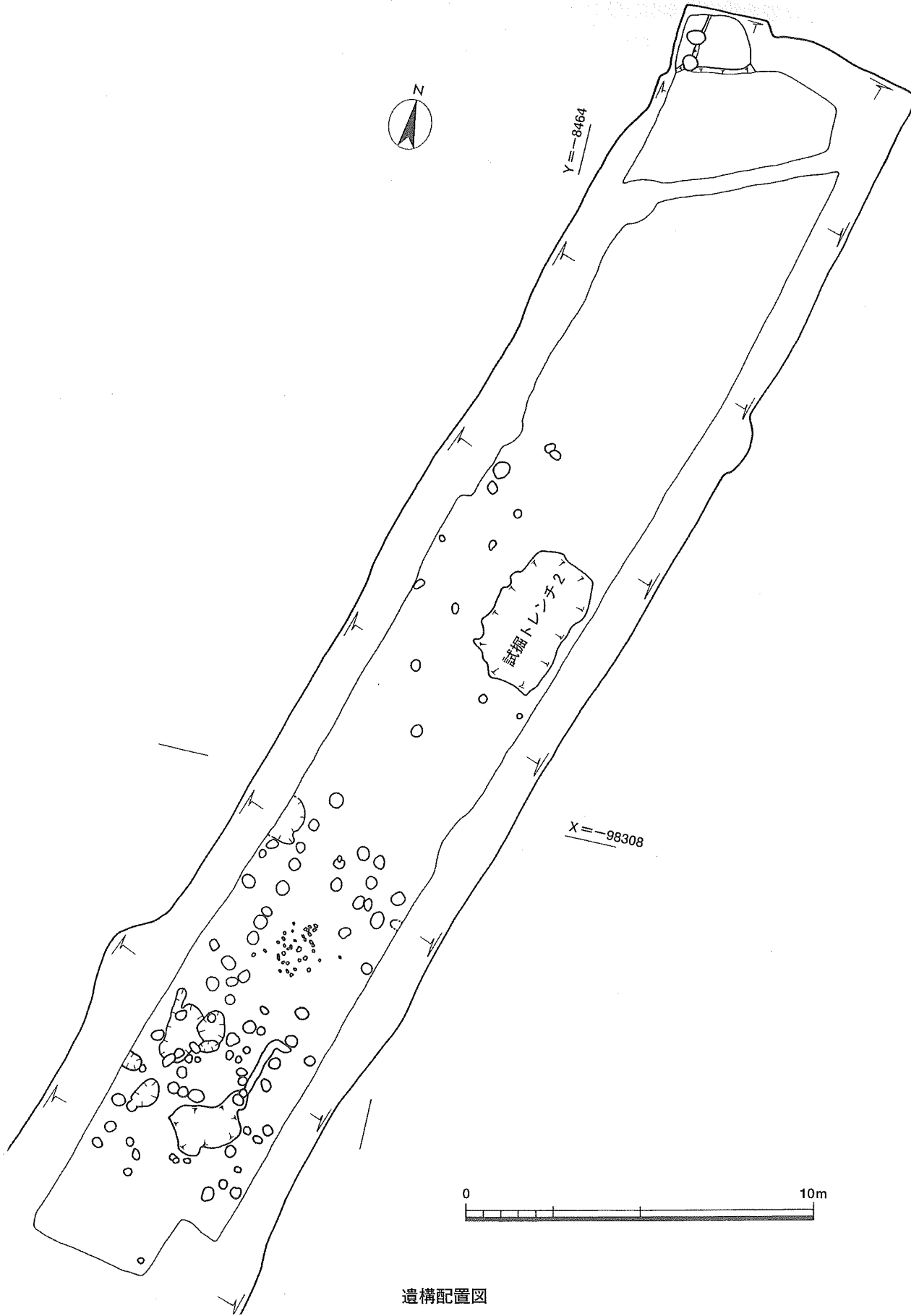


土師皿出土状況図 (S=1/20)



土師皿下層検出

央部で設定した試掘トレンチでは、第1遺構面から0.5mほど掘り下げたところで、土師器甕の比較的大きな破片が出土し、焼土を確認した。引き続き下層遺構の調査が必要である。(西中)



遺構配置図



トレンチ南半 (北西より)



下層確認トレンチ 土器検出状況